

## 南阿蘇景観形成地域の色彩ガイドライン

### 2-3-1 南阿蘇景観形成地域の範囲

南阿蘇景観形成地域は、下図に示した阿蘇山の南麓にあたる地域です。

地域は、地形や土地利用の状況から、さらに3つのゾーンに分けられます。

- 1—山麓景観形成ゾーン
- 2—田園景観形成ゾーン
- 3—沿道景観形成ゾーン

### 2-3-2 景観づくりの基本的考え方

阿蘇五岳及び外輪山がつくりだした雄大な火山性地形、人々の永年の営みによってつくりださ

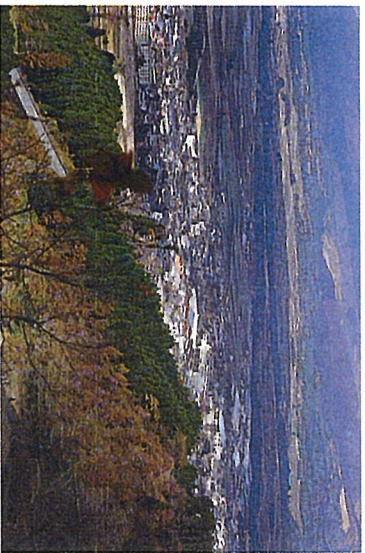


写真 高森峠から見た南阿蘇のまちなみ



写真 根子岳とログハウス

れた美しい草原や田園景観、さらに名所や旧跡が醸し出す歴史性・文化性などに代表される南郷谷の景観は、恵まれた自然景観とそこに住む人々の手による人文景観との共存の姿といえます。

また、近年においては、こうした自然資源や歴史・文化的資源をいかして、多くのリゾート開発構想が進行しています。

南阿蘇景観形成地域においては、こうした開発と、地域の資源との調和を図り、統一感のあるリゾート景観の形成を目指して、次の基本的考え方に沿った景観形成を進めます。

- 1—豊かな自然との調和
- 2—阿蘇五岳・外輪山への眺望をいかした景観の形成
- 3—高所よりの眺望を考慮した景観の形成
- 4—緑と水をいかした景観の形成
- 5—文化とアメニティあふれる地域景観の形成

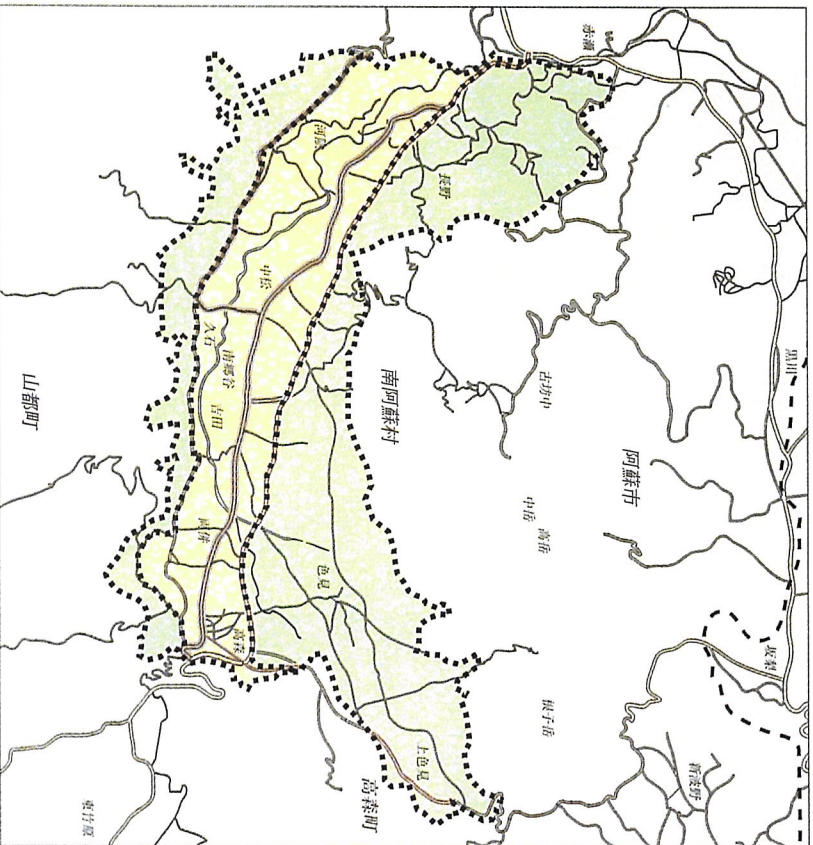


図 南阿蘇景観形成地域の範囲とゾーン区分

- 区域
  - 高森町 大字上色見の一部
  - 〃 色見
  - 〃 高森
  - 南阿蘇村 大字一関の一部
  - 〃 白川
  - 〃 中松
  - 〃 吉田
  - 〃 雨井
  - 〃 河陰
  - 〃 久石
  - 国有林熊本地域 施業計画区
  - 熊本事業区
  - 20林班の全部
  - 大字河陽の一部
  - 〃 下野
  - 〃 長野

#### 山麓景観形成ゾーン

#### 田園景観形成ゾーン

#### 沿道景観形成ゾーン(A-1)

#### 沿道景観形成ゾーン(A-2)

## 2-3-3 南阿蘇景観形成地域の景観形成基準

■表 南阿蘇景観形成地域の景観形成基準(建築物等の色彩に関するもの)

※沿道景観ゾーン A-1：国道 325号、265号 沿道景観ゾーン A-2：国道 265号旧道、国道 325号旧道、県道 熊本高森線、県道矢部阿蘇公園線、村道大久保一本杉線	沿道景観形成ゾーン		山麓景観形成ゾーン		田園景観形成ゾーン	
	A-1	A-2				
<b>建築物等</b>	外観	色彩	外壁及び屋根の色彩は、隣接する建築物等や周囲と調和した落ちついたものを用いるものとする。	基調となる色彩は別表の基準のものを採用するよう努めるものとする。	基調となる色彩は別表の基準のものを採用するよう努めるものとする。	基調となる色彩は別表の基準のものを採用するよう努めるものとする。

敷地内における建築物等は、色調を統一するとともに、多色の使用は避けるものとする。

### ■別表

屋根の色範囲			外壁の色範囲			
記号	色名	色相	記号	色名	色相	明度/彩度(トーン)
R I	赤	2.5R~2.5YR	W I	ベージュ	2.5YR~1.0Y	4.0~8.5/1.0~2.0
	赤みの茶			茶		
R II	茶	2.5YR~7.5YR	W II	うすい黄	1.0Y~10Y	6.5~8.5/1.0~2.0
	黄みの茶	7.5YR~1.0Y		灰みの黄		
R III	オリーブ	1.0Y~5.0GY	W III	茶	7.5R~7.5YR	2.0~4.0/1.0~6.0
	オリーブ			7.5YR~1.0Y		2.0~4.0/1.0~4.0
	グリーン					
R IV	灰色	2.5YR~7.5GY	W IV	白	2.5YR~7.5GY	6.5~8.5/1.0以下
	暗い灰色			明るい灰色		
	黒			灰色		

※別表の色彩は、「自然景観地における建築物の色彩基準に関する研究報告書」(環境庁自然保護局・昭和56年)から抜粋した色彩基準を準用したも  
のになっていきます。



■写真 熊本を象徴する阿蘇の山々の眺望—高森町

## 2-3-4 南阿蘇景観形成地域の色彩景観の現況

YR(黄赤)系やY(黄)系色相を中心とした分布

右の図を見てもわかるように、南阿蘇景観形成地域の建築物の外壁基調色は、YR(黄赤)系やY(黄)系色相を中心とした分布になっています。やや彩度の高い色彩が多くみられますが、このほとんどは天然の木材による外壁です。

穏やかな色彩の観光施設と多色使いの住宅・店舗

南阿蘇景観形成地域には、多くの観光施設が集積しています。

こうした観光施設の多くは阿蘇の山並みにふさわしい穏やかな色彩を基調としている反面、一般の住宅や商店では、さまざまな色彩が使用されています。

地域のイメージは、観光施設ばかりではなく、一般の住宅や商店も含めた総合的な景観によってつくられるものです。

今後は、広域からの集客を目的とした観光施設ばかりでなく、地域が一体となって、南阿蘇にふさわしい色彩景観づくりをすすめていくことが必要といえます。

統一感・共通性に欠ける広告物とサイン

南阿蘇景観形成地域では観光施設の広告看板や自治体のスローガンなど多くの広告物やサインを見ることができま

す。これらの広告物やサインの形態や色使い、設置場所などは一つひとつまちまちで、統一感や共通性に乏しいのが実状といえます。

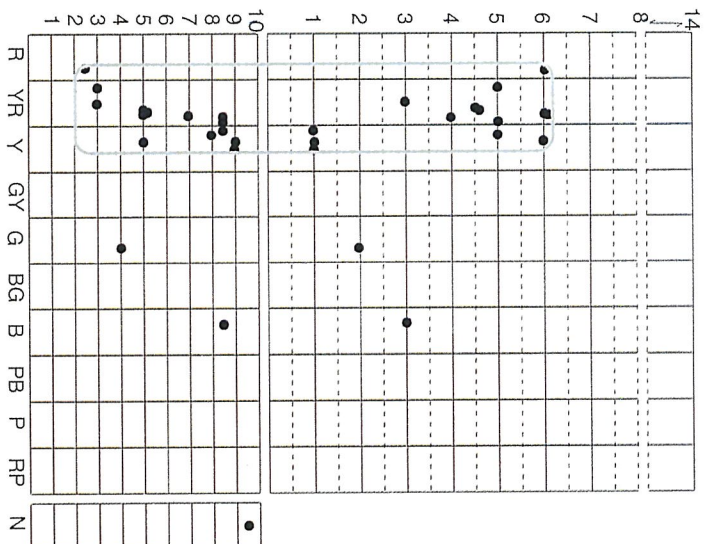


図 現状における外壁基調色の分布



写真 色彩や表現方法に統一感のないサイン—高森町



写真 併存するさまざまな色彩、形態、規格のサイン—高森町



写真 派手な色彩を多用した商店—高森町

### 2-3-5 南阿蘇景観形成地域の色彩ガイドライン

#### 共通のイメージをつくる

ほぼ全域が広域観光拠点となっている南阿蘇景観形成地域では、観光施設ばかりでなく一般の住宅や商店、工場なども全国から訪れる多くの人々に見られる対象になっていきます。南阿蘇景観形成地域では、地域の人々が協力して阿蘇を美しくみせる穏やかな色彩を用い、地域共通のイメージをつくり出すことを目標とします。

全体的には明るさを抑えた穏やかな色彩を基調とし、派手な色彩の使用は極力避けるものとします。

#### 配色を整理しよう

広告物やサインなどの配色や形態、掲出方法などは整理し、周辺に複数のサインが散在している場合は、これらを集約して、共通の色使いになるように工夫しましょう。

### 2-3-6 南阿蘇景観形成地域にふさわしい色彩

#### 住宅や商店は阿蘇の枯れ草色を参考に

阿蘇の山並みが一層映える色彩景観をつくるべく、いくために、一般の住宅や商店は、高彩度のアクリルカラーの使用を極力控え、建物の色彩として最もポピュラーな暖色系の中穏色や暗穏色などを基調にしましょう。

色彩の選択に迷った際には、下に例示したような色彩を基調に用いると良いでしょう。これらの色彩は、丁度、阿蘇の草原の枯れ草色に似た色彩といえます。

#### 地域の素材にも配慮しよう

色彩による景観づくりだけでなく、地域周辺で産出される木材や石材を積極的に活用するなど、の工夫も考えられます。

阿蘇地域に近年整備された多くの公共施設では、こうした地域の素材を用いており、民間施設もこれらを参考にすると良いでしょう。

地域の素材は地域の自然が育んだものといえますから、その色彩も地域の自然になじみやすいものが主体です。

※1—沿道景観形成ゾーン(A-1)、山麓景観形成ゾーンについては、マンセル値による基準が既に定められていることから、29ページの別表の範囲内にある色彩を基調としてください。

※2—外壁基調色の推奨トーンは、南阿蘇景観形成地域全域共通とします。

※3—表面に着色を施していない木材や土壁、金属板、スレート、ガラスなどの素材色は、この色彩ガイドラインの適用を除外します。

※4—各トーンごとの色彩の範囲は、19ページの一覧表を参照してください。



■表 外壁基調色の色彩ガイドライン

ゾーン 選けた方がよいトーン(●)



■表 外壁基調色の推奨トーン

推奨トーン(○)

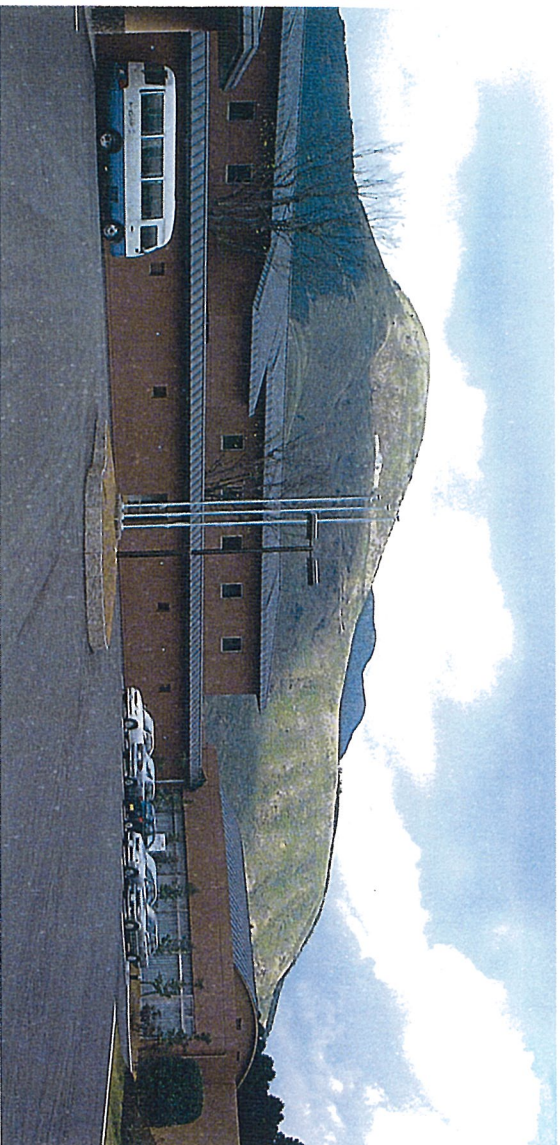
#### ■南阿蘇景観形成地域の推薦配色

(5YR4.5/0.5)	N4.0(N4.0)	(5YR2.2/2)	(5YR2.5/0.5)	N-30(N3.0)
(5YR5.5/5)	(7.5YR4.5/5)	(7.5YR5.4/5)	(7.5YR5/4.5)	17-60D(7.5YR6/2)
(5YR3.5/4)	12-50L(2.5Y5/6)	(7.5YR4.5/5)	(7.5YR5/4.5)	15-30F(6YR3/3)
温泉保養施設(南阿蘇村)	研修施設(南阿蘇村)	研修施設(南阿蘇村)	宿泊施設(高森町)	

#### ■南阿蘇景観形成地域の推薦色

●中穏色	05-60B(5R6/1)	09-70D(10R7/2)	15-70D(5YR7/2)	17-60D(7.5YR6/2)	19-60F(10YR6/3)	22-60D(2.5Y6/2)
●暗穏色	09-30D(10R3/2)	22-30D(2.5YR3/2)	15-40D(5YR4/2)	15-30F(6YR3/3)	19-40D(10YR4/2)	22-40D(2.5Y4/2)
●暗清色	09-40L(10P4/6)	(5YR4/6)	17-50L(7.5YR5/6)	22-50H(2.5Y5/4)	22-40H(2.5Y4/4)	25-40H(5Y4/4)

※暗清色は、木材、土壁などの素材色が基本です。



暗青色のタイルを基調とした外壁と暗灰色の屋根を組み合わせた例—南阿蘇村

●上—つやを抑えた穏やかな質感のタイルを外壁の基調としています。

一部に色彩や質感の異なるタイルを用い、アクセントとしています。

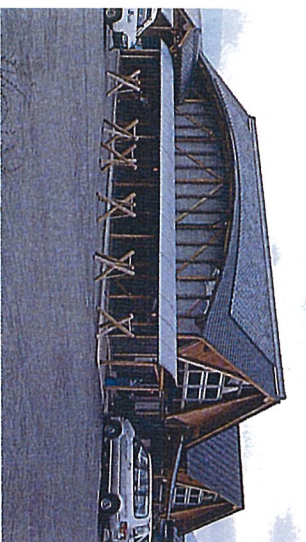
また、暗灰色の勾配屋根によって陰影のある表情をつくっています。

●下左—木の外壁を基調とし、屋根などの補助色としてフルーグレーの塗装板を配しています。シンワルな色使いですが、建築形態とうまく融合して、落ちつきの中にも個性を感じさせます。

●下右—左の写真と同様に木が外装の基調になっています。屋根は灰色の窯し瓦を使っています。



木材の外壁とやや暗めの屋根を組み合わせた例—高森町



木材の外壁と彩度を抑えた瓦屋根を組み合わせた例—南阿蘇村

■写真 景観色彩シミュレーション



南阿蘇景観形成地域の景観と対比的な例



明度を下げて背景の山並みに融和させた例

素材色のもつ力

色彩がもたらすイメージと、その材質の質感とは密接な関係をもっています。南阿蘇景観形成地域でよく見られる、ログハウスに使用されている天然の木材などはその典型といえます。天然材の色彩は樹種や表面処理の方法などによって一定の幅がありますが、我々の想像よりも彩度が高いことがよくあります。南阿蘇景観形成地域内の建物を例に挙げれば、その彩度は5〜6前後のものか一般的で、なかには彩度が8といるものも含まれています。この色彩などは、単純にいえば色彩ガイドラインの「避けた方がよいトーン」に含まれてし

まうものですが、ログハウスのナチュラルな色彩は経年変化し、阿蘇の景観になじんでいきます。

一方、これらの木材と同じ色彩を平滑面の塗料で再現するとなぜか違和感を感じさせるものになってしまいます。このほかにも、寺社に荘厳なイメージをもたらす緑青銅板と、同じ色彩を塗料で再現した金属板の人工的なイメージの差など、素材色のもつ不思議な力を感じる例は少なくありません。

この色彩ガイドラインで、自然の素材色を適用対象から除外しているのは、色彩ばかりでは説明することのできない、自然の力がつくり出す材質感を尊重しているためなのです。



色彩と材質感

対比的な例の建物の基調色は、色彩景観ガイドラインの範囲内に収まっています。背景となる根子岳の山腹との明るさ(明度)対比が強くなっています。明度を下げることによって背景との対比を弱め、アクセントラインなどを追加することによって、大規模施設の威圧感を低減するなどの改善が考えられます。